

産婦人科領域における情報リテラシー —ビッグデータとバイオインフォマティクスの活用

企画者のことば

吉原弘祐

現在、インターネットを通じて膨大な量の情報にアクセスできる時代ですが、膨大な情報のなかにはフェイクニュースも含まれています。そのため、情報の正誤を見極め、適切に処理する能力である「情報リテラシー」の重要性が高まっています。情報リテラシーはわれわれ産婦人科医にとっても重要です。プレプリントやハゲタカジャーナルのように、査読前の論文、あるいは適切な査読がされないままの論文が無料でダウンロード可能な形で公開されたりする時代において、信頼できる情報かどうか判断できる情報リテラシーが不可欠になっています。一方、ビッグデータをうまく利活用することで新しい知見を得られる時代でもあり、バイオインフォマティクスの習得は、新しい時代の産婦人科医にとって新たなサブスペシャリティとして位置づけられる可能性があります。

そこで今回、情報リテラシーが高まっている時代において、ビッグデータとバイオインフォマティクスの活用をテーマに、エキスパートの先生がたにご自身の経験を踏まえて執筆していただく企画を提案いたしました。日々産婦人科診療に従事されている先生がたにバイオインフォマティクスを感じていただく機会となれば幸いです。